資料４

議論の取りまとめに向けた基本的考え方（１月１２日）　案

Ⅰ　留学生交流の意義・目的

１．留学生交流全体について

（１）国際社会及び我が国の安定と平和への貢献

・グローバル化する経済・社会の中でますます重要となる我が国と諸外国との間の親密な人的ネットワークを形成。相互理解の増進や友好関係の深化。

・特に帰国留学生は，様々な分野で両国の懸け橋として対日理解，友好関係の促進に貢献が期待。こうした人的ネットワークは我が国が安定した国際関係を築く上での基礎。

（２）高等教育の強化

・高等教育・研究の国際通用性・国際競争力の向上

－世界的な広い視点に立って大学等の教育研究の内容や水準を改善。

－留学生自身の活力や異文化との交流、国際的な競争環境の形成等を通じて、大学等の教育研究の国際的な通用性・共通性の向上と国際競争力の強化を促進。ひいては科学技術、産業等の国際競争力の維持・向上とともに、文化の進展等にも寄与。

・新たな価値創造の強化

－国境を超えた大学間競争が激化する一方で、既に人類が抱える課題は国境を越えたものとなっており、人類の普遍の　価値を常に生み出し、提供し続ける高等教育を維持・発展させるためには、国内外で機関ごとにただ「競争」するのではなく、課題解決等に協力して当たるための人的、物的資源の共有化による「共創」「協創」により比重を置いていく必要。）

高等教育システムは、国、地域を越えて展開される「オープン」な時代に。

－個々人がその可能性を最大限に活かし、AI 時代やグローバル時代を生きていく能力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側が考える教育から脱却し、高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要。

・流動性の向上

－高等教育機関には「多様性」「柔軟性」とともに、高等教育機関で学ぶ学生や、教育研究を行う教員は、組織に縛られることなく、その「流動性」の確保が重要。

－今日、研究力の強化の観点から、トップダウン／ボトムアップの両輪の観点からの国際頭脳循環の推進が必要。諸外国も、国内から人材を送り出し、国外から人材を獲得する科学技術人材の流動性を加速する施策を推進。一方で日本の科学技術人材の流動性は低迷しており、研究力低下の主因とも。

（３）国際的に開かれた日本社会の実現

・多くの日本人が様々な国・地域からの外国人留学生との交流を通じて、多様な価値観、発想、習慣等に触れる機会を日常的に持つことや、留学後も引き続き我が国において就職した留学生が活躍することなどにより、国際的に開かれた活力ある社会の実現が期待。

２．外国人留学生受入れの意義・目的

（１）外交政策的目的

・諸外国との相互理解の増進、相互信頼に基づく友好関係の構築、国際親善、平和や安全保障の実現

・人材育成による知的国際貢献

・人的ネットワークの形成（親日派、知日派）
我が国の影響力・プレゼンスの向上

・我が国の魅力の発信・普及

（２）大学の教育研究力の向上

・大学の国際化、日本人学生と外国人留学生の共修、ダイバーシティの進化

・ひいては社会の活性化、ダイバーシティの進展

・大学の研究力の強化（国際頭脳循環、大学間ネットワークの強化）

（３）高度外国人材の獲得

・人口減少社会における高度人材の獲得

・重要分野の人材の獲得

・イノベーションを牽引するトップレベル人材（国際競争力の強化につながる人材、スタートアップ人材等）の獲得

３．日本人学生の留学の意義・目的

（１）すべての留学

〇語学力、コミュニケーション能力の向上

〇異文化環境下の学習や生活経験を通じた、主体性、積極性、チャレンジ精神等の涵養、社会貢献の意識の涵養

〇アイデンティティの確立

〇国際親善、相互理解・相互信頼、人的ネットワークの構築（草の根レベル）

（２）高等教育レベルの学修経験を伴う留学

〇多様な価値観に触れ、広い視野を得て、多様な文化的背景をもつ人々と協働する力、課題を解決する力（思考力・行動力・表現力・交渉力）、新たな価値を創造する力の育成

（３）より高度で専門的なプログラムの履修を伴う留学

〇先進的な教育研究への参画、高度な専門性の習得

〇世界から集う仲間との切磋琢磨による高度な学習・研究の実現、
人的ネットワークの構築（長期にわたる人間関係や、トップコミュニティとのつながりを含む）

Ⅱ　留学生交流の現状と現行施策

Ⅲ　地域・分野の戦略の在り方

１．　考え方

（１）地域

○東アジア
○東南アジア
○南西アジア
○大洋州
○北米
○中南米
○欧州
○中央アジア・コーカサス
○中東
○アフリカ

（２）分野

Ⅳ　今後の施策の方向性

（１）外国人留学生の受入れ
（２）日本人学生の海外留学
（３）高等教育の国際化

（留学生交流の今日的意義を踏まえた方向性
地域・分野の戦略を踏まえた方向性　等）

（参考１）これまでの議論（留学生交流全体及び大学の国際化関係）

【新たな留学生政策の展開について（中央教育審議会答申）】（2003 年 12 月）

・諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成

・国際的な視野を持った日本人学生の育成と開かれた活力ある社会の実現

・我が国の大学等の国際化，国際競争力の強化

我が国の大学等が，留学生の受入れ・派遣を進めることは，世界的な広い視点に立って大学等の教育研究の内容や水準を改善することを促す。そして，留学生自身の活力や異文化との交流，国際的な競争環境の形成等を通じて，大学等の教育研究の国際的な通用性・共通性の向上と国際競争力の強化を促進するものであり，ひいては，我が国の科学技術，産業等の国際競争力の維持，向上に資するとともに，我が国の文化の進展等にも寄与するものである。

・国際社会に対する知的国際貢献

【2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（中央教育審議会答申）】（2018 年 11 月）

〇我が国の世界における位置付けと高等教育への期待

・世界の高等教育においては、国内の教育機会の提供の段階から、近隣諸国を含めた域内の教育機会の提供の段階を経て、高等教育がまだ充実していない地域での教育機会の提供の段階、そして、MOOC（Massive Open Online Course:大規模公開オンライン講座）をはじめとするオンラインでの教育機会の提供の段階へと在り方の多様化が進み、（中略）高等教育システムは、国、地域を越えて展開される「オープン」な時代を迎えている。

・国境を越えた大学間競争は、世界大学ランキング等の影響もあり激化しており、国家を巻き込んだ競争に発展している。他方、情報通信技術の進歩等とも相まって、かつては相互に独立的に、あるいは孤立的、対立的に発展してきたそれぞれの社会セクターにおいても、他の社会セクター等との間の相互の参加や連携が不可欠となり、これらの動きにより、今日の社会にふさわしい形での自らの存立基盤や独自性の強化につながるということも増えてきている。大学も例外ではなく、大学間の国際的な連携・協力や、高等教育システムの調和を基礎として、高等教育の国際協力も進展している。既に人類が抱える課題は国境を越えたものとなっており、人類の普遍の価値を常に生み出し、提供し続ける高等教育を維持・発展させるためには、質を向上させるための切磋琢磨は必要であるが、国内外で機関ごとにただ「競争」するのではなく、課題解決等に協力して当たるための人的、物的資源の共有化による「共創」「協創」という考え方により比重を置いていく必要がある。特に、我が国のような課題先進国の高等教育機関が世界的課題解決に貢献することは重要であり、この貢献が各国との安定的な関係の構築にも資するという意識を持つことが必要である。

〇教育研究体制　－多様性と柔軟性の確保－

・個々人がその可能性を最大限に活かし、AI 時代やグローバル時代を生きていく能力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側が考える教育から脱却し、高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要。（中略）なお、高等教育機関には「多様性」と「柔軟性」が求められるとともに、高等教育機関で学ぶ学生や、教育研究を行う教員は、組織に縛られることなく、その「流動性」を確保していくことが重要である。

（参考２）これまでの議論（外国人留学生受入れ関係）

青：外交政策的目的
緑：大学の教育研究力の向上
赤：高度外国人材の獲得

【留学生 10 万人計画】　「21 世紀への留学生政策に関する提言」（1983 年 8 月）

- 諸外国との相互理解の増進、相互信頼に基づく友好関係の構築
- 我が国と諸外国相互の教育･研究水準の向上、国際理解･国際協調の精神の醸成
- 開発途上国の人材育成

【「新たな留学生政策の展開について」 2003 年 10 月 中央教育審議会答申】

- 諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成
- 国際的な視野を持った日本人学生の育成と開かれた活力ある社会の実現
- 我が国の大学等の国際化、国際競争力の強化
- 国際社会に対する知的国際貢献

【留学生 30 万人計画】　同骨子（2008 年 7 月）

- 日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環
- 高度人材受入れとも連動させながら、国・地域・分野などに留意しつつ、優秀な留学生を戦略的に獲得
- アジアをはじめとした諸外国に対する知的国際貢献等

【「高等教育機関における外国人留学生の受入推進に関する有識者会議報告」2017 年 8 月】

- 現在，世界は熾烈な人材獲得競争のさなかにある。グローバル化の進展のもと企業も教育研究機関も世界中から人材を求めている。国際社会の中での各国の影響力もまた，世界大のネットワークをいかに強化できるかにかかっている。（中略）少子高齢化が進む我が国にとって，この競争に勝ち残るための決定的な政策こそ，外国人留学生政策である。
- もとより，諸外国の人材育成に協力することは重要な国際貢献の一つであり，世界に日本の友人を増やすことにつながる。
- 世界各国からの留学生と学び合うことは日本人学生に好影響を与える。

【第一カテゴリー】 我が国として戦略的に受入れを促進すべき学生

① 学術面で高度な才能を持ち，日本の大学の教育や研究水準の向上に資する人材
② 将来途上国などにおいて指導的立場につく可能性のある人材であり，我が国とそれらの国の関係強化につながる人材
③ 技術開発や経営その他ビジネス遂行における高度な潜在力をもち，彼らが我が国企業に就職することにより日本企業の国際競争力が強化されるような人材

【第二カテゴリー】日本文化ないし高度産業社会としての日本に関心を持ち自己負担でも日本で教育機会を求めたいと考える学生

① 留学生交流を通じた我が国大学の国際化・多様化
② 途上国等のニーズに対応した人材育成
③ 日本の高等教育機関への進学者の増加　　などの効果をもつもの

【高等教育を軸としたグローバル政策の方向性】（2022 年 7 月）

- 高等教育の質・多様性の向上、社会の活性化・ダイバーシティの深化
- 少子高齢化の下、我が国の社会の発展を牽引する必要不可欠な高度外国人材を確保
- 国内における教育研究の活性化・水準向上
- 母国との架け橋となり、諸外国との国際交流、相互理解と友好親善の増進
- 知日派人材の育成を通じ我が国のプレゼンスの向上
- 我が国と共通の価値観を有する人材の育成/ネットワークの構築
- 我が国の様々な魅力を海外へ積極的に発信・普及

（参考３）これまでの議論（日本人学生の留学関係）

【産学官によるグローバル人材の育成のための戦略（文部科学省 産学連携によるグローバル人材育成推進会議）】 2011 年（平成 23 年）4 月 28 日

グローバル人材とは、世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間であり、このような人材を育てるための教育が一層必要となっている。

【グローバル人材育成戦略（内閣官房 グローバル人材育成推進会議）】（2012 年 6 月）

○「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれる

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

○ このほか、「グローバル人材」に限らずこれからの社会の中核を支える人材に共通して求められる資質としては、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を挙げることができる。

○ 要素Ⅰを基軸として（他の要素等の「内実」もこれに伴うものを期待しつつ）、グローバル人材の能力水準の目安を（初歩から上級まで）段階別に示すと、例えば、以下のようなものが考えられる。

① 海外旅行会話レベル
② 日常生活会話レベル
③ 業務上の文書・会話レベル
④ 二者間折衝・交渉レベル
⑤ 多数者間折衝・交渉レベル

○（中略）今後は更に、④⑤レベルの人材が継続的に育成され、一定数の「人材層」として確保されることが、（中略）我が国の経済・社会の発展にとって極めて重要。

○ ④⑤レベルの人材を育成する上では、比較的若いうち（10～30 歳代まで）に留学や在外経験をした上で、（大学・大学院や職場での）更なる研鑽を積むという経路が有効であることは否定し難い。

【第３期教育振興基本計画 2018 年（平成 30 年 6 月 15 日）閣議決定】

２．社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

目標（７）グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度や，豊かな語学力・コミュニケーション能力，主体性・積極性，異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

【高等教育を軸としたグローバル政策の方向性】（2022 年 7 月）

・多様な文化や価値観に触れ、世界中の人々や国内の多様な文化的・言語的背景をもつ人々と協働できる力、広い視野で自ら課題に挑戦する力を身につける

・異文化理解の促進、アイデンティティの確立、国際的素養の涵養等

・視野を広く持ち、自ら果敢に課題に挑戦し、新たな価値を創出するリーダー人材を育成

・最先端の教育・研究に触れ、世界中の学生・研究者と切磋琢磨することで、グローバルに活躍する日本人研究者を育成